

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社すえ広企画		
事業所名	グループホームじーちゃん・ばーちゃんのお家A,B棟		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	令和4年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活が入居者様にとって生き生きと生活して行けるように入居者様側に立って考えることをモットーとし、職員は全員同じ考えでケアすることを目指している。建物の外観は建設をするときから施設でなく多世帯で住んでいる広い住宅に見える外観にこだわった。入居者様から「やれやれ家に帰った。ただいま！」の声が聞こえてる。庭は芝生になっている。お茶、食事を楽しんで、四季折々の花々に囲まれ、隣接の畑では野菜収穫ができる。庭から春には鶴山公園の桜、夏の津山納涼花火観覧、そして流しうめんは庭での恒例行事となっている。共用型通所を開設していることは同じ空間の中で交流ができ入居者様にとって沢山の刺激に囲まれた生活を送ることができる。当職員は資格取得を目指し、資質向上のために積極的に支援を受けられる体制をとっている。また看護師、作業療法士、教諭と介護職は多数の資格を持ち、多くの経験を踏まえ職員間の連携を図っている。ゆとりのある介護を目指し、人員基準以上の職員配置がある。23~24人の職員で開設当時から勤務5年~10年以上在籍している職員が大多数を占めている。ICT活用により業務効率化を実施している。高校の実習受け入れにも協力体制を取り、未来の介護士育成にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の職員には、看護師や作業療法士の資格者も居るので、利用者個々の対応について各々の知識を持ち寄り、利用者にとって最善の支援の提供に努めている。例えば、足が上がらなかったり立ち上がりが困難な利用者に対する入浴支援等は、動画で撮影し職員全員が、利用者負担が掛からない支援方法が出来るようにしている。利用者の少しの変化も見逃さず、皮膚などの異変があれば直ぐにネットで調べたり、看護師に相談したりする等、健康管理に努めている。癌なども早期に発見し、手遅れにならずに済んだこともある。また、働きやすい環境を整える事で、勤続年数が長い職員が多く、協力しながら働いている。子どもの体調不良等で急な欠勤になっても、快く対応してくれるので働きやすい。休み明けの出勤日には、大丈夫だったかと気にかけてもらえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの前に当ホームの理念である「地域との交流を持ち、諦めを希望に変えられる様支援致します」を唱え、入居者の方々が自信を持って生活が送られるように話し合う努力をしている。	理念に掲げる「あきらめを希望に変えられるように支援します」の実践に努めている。利用者が役割をもって生活できるような支援を職員間で話し合い、可能な料理の下ごしらえ等を手伝ってもらっている。その際は、必ず感謝の言葉を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内在住の職員がいることで交流は深い。町内の溝掃除、近隣のゴミ拾い等に職員が参加をしている。新型コロナウイルス感染症のために地域の交流ができなかった。	コロナ禍になる迄は、地域の高齢者や子ども達を事業所に招待する等、交流が活発に行われていたが現在は中止している。しかし、野菜の差し入れがある等交流は続いている。地域の避難訓練にも参加し、土のう作りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護保険、グループホームについて地域の方、民生委員、愛育委員さんからの相談相手となり、津山市、包括、社協へ相談が出来るように援助や支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やホーム職員の活動報告、ご家族に対しての勉強会は新型コロナウイルス流行のために全く出来ていない。	コロナ禍になる迄は、愛育委員、町内会長、民生委員、家族が参加してくれ、利用者や職員の活動内容を報告していたが、現在は中止している。	事業所の取り組みを把握してもらうためにも、議事録の郵送を委員にも検討して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	書類は郵送せず必ず持参し、事業所の取り組みを伝え、協力関係を築いている。市主催の居宅サービス部会にも参加している。社会福祉協議会からの依頼でアルツハイマーデイ実行員も務め、来月のイベントにも参加を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびホーム全職員が会議で話し合い、禁止事項等を事務所に貼っている。身体拘束の勉強会をおおむね2ヶ月に1回の割合でレポートにまとめている。	2カ月毎に、身体拘束の勉強会を実施している。毎回担当する職員を変更し、その担当者が考えた事例を基に、全員で身体拘束をしないケアの取り組みについて検討をしている。身体拘束だけでなく、言葉の拘束にも気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者は利用者を守るうえで入居時の家族関係に気を付け、包括、社協と連絡を取り成年後見制度を利用した。事業所内での防止策として、特に夜間は、1時間に1回ユニット間で報告をし、記録に残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業および、成年後見制度を学んで支援している。また、制度を必要としている利用者や家族に対して、支援をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡して契約の時に、質疑応答の時間を設定している。改定時には追加で口頭と文章で説明し、同意書にサインももらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催も出来ずに今期は過ぎて行ってしまった。ホームだより等でお知らせをする機会のみになった。	勉強会でも家族とのコミュニケーション方法を学び、何でも言ってもらえる関係作りに努めている。電話で要望等を尋ねているが、オンライン面会を活用した面会后等も話し合う時間を作ってもらい、要望の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や効率会議、ミーティングでホーム職員の意見や提案を吸い上げて反映させている。また、会議録を回覧して全ホーム職員が議題を周知出来るようにしている。	日頃からコミュニケーションを図り、提案等の把握に努めている。ケアに対し不安があれば、直ぐに相談に乗っている。申し送りの後等にも個別に話を聞いてもらっていると職員ヒヤリングで教わった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の努力や実績を把握出来るようにコミュニケーションを図り、各々が向上心を持って働けるよう環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修ができず、キャリアアップ訪問研修の講師の先生を招いての研修もできなかった。急遽PCのリモートを通して研修を、慣れないながらも参加している。資格取得に向けた研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中での研修、交流等の集まりに参加をしていない。また、自粛を促し参加を促すこともしなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全ホーム職員が個別に声掛けをし、本人が困っている事、不安な事、要望など心身状態の変化を申し送りで伝達している。安心感をもてるまでは、相談しやすい職員を主に関係づくりが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長および管理者は、電話や面会時に家族が困っている事、不安な事、要望などを傾聴し、可能な限り相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、随時サービスの変更が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合い生活していると実感して頂けるように、買い物や食事の準備などの役割を提供し、介護されるのみの一方的な立場に置かない関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊/外出の申し出や電話の要望、面会など新型コロナウイルス感染症のためにすべてを中止にした。オンライン面会を中心に切り替えて、家族・本人の絆を大切にした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所が想起できるように、年賀状や手紙のやり取り、電話、面会などで関係が保てるよう支援をしている。	コロナ禍となり面会中止の決定をした時は、SNSの使用方法的説明書を作成し、家族へ郵送し登録の依頼をした。現在は、木金にオンライン面会を実施している。1週間に一度は、電話で声を聞かせて欲しいと依頼している家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係を維持出来るように観察し、問題が生じたときは、ミーティングや申し送りなどで話し合い個人を大切にした支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、家族と電話でのやり取り、手紙などで関係を維持出来るよう努めている。入院から施設に転居になったときは家族から連絡をいただいたり、電話をするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に話をする機会を設け、現在の思いや今後の生活像を把握出来るように努めている。困難な場合は、家族からの意向で本人の様子から汲み取り検討している。	一対一の入浴の際等、しっかり話を聞き思いを汲んでいる。癌が見つかり、病気に對して不安にならないよう、寄り添っている。阪神タイガースが好きな利用者には、試合の時間になるとテレビをつけ、ゆっくり鑑賞できる環境を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過などについて家族や支援事業所などからの情報を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や有する力等の現状を観察し、ホーム職員間で情報共有して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・ホーム職員と話し合い、毎月のミーティングの中で個人に即した方法や本人の気持ちを踏まえて意見やアイデアを提案して介護計画を作成するよう努めている。	毎月の職員会議の際、ケース会議の時間も設けモニタリングを実施し、現状に即した支援内容かどうかの確認をしている。介護計画作成時は、家族に利用者の状況を手紙で伝え、要望を記載してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌を紙媒体からiPadに変更をした。従来と変わらない内容で、実践や介護計画の見直しに活かしている。また、個々の部屋担当者が中心となり、アセスメントをしたうえで、計画を立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに對して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況およびその時々生まれるニーズに對して、余裕のある人員と、サービスの多機能化を考えた工夫をしている。共用型のDSを活用することで張りのあるGHサービスを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部に出ることは出来ていないが、本人の力が発揮でき豊かな暮らしを楽しむ事に重点を置いている。津山の昔の写真集を購入し懐かしい街並みを語り合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などの意思を尊重したかかりつけ医で適切な医療を受けられるように同行や手紙、1週間の体調を記録した受診カードを持参して支援をしている。また、受診困難な入居者は、往診で対応している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の継続支援をしているが、コロナ禍となり往診してくれる協力医に変更する家族もいる。受診前には、1週間分の血圧、脈、体温、食事と水分量、排泄回数を記録した用紙を先生へ渡し、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの中に看護師が勤務をしている。介護職の立場を考え、医療に関して困りごとがないように相談が出来る良い関係が保たれている。利用者が適切な受診や往診が受けられるように共同で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努め、病院の入退院時には情報交換シートを使用している。また、退院には、実際にホーム職員が病院に行き、生活がスムーズに移行出来るよう関係者に聞き取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、医師・家族と十分な話し合いをしている。ホームでの看取りか、支援出来ることはなにかを適宜に話し合い、本人が望む事を大切に支援している。	医師と連携を図りながら、家族や利用者の要望に応じた看取り支援をしている。例えば、自宅の仏壇に手を合わせたいと望まれ、看護師、職員、施設長が付き添い希望を叶えた。入浴したいと言われれば、3人介助で湯船に入ってもらったこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ホーム職員は、応急手当および初期対応の仕方を消防署から訓練を受けている。また、マニュアルを作成し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は、防災管理担当者が年間計画を立案して独自に訓練を実施している。また、近隣の協力で1ヶ所非常用門扉を増設できた。地域での防災訓練にも参加している。	火災以外にも水害や地震想定を含め年4回訓練を実施している。訓練の際は、避難場所である公民館の館長に依頼して、施設内迄入らせてもらっている。避難の際、表の玄関からしか外へ出られなかった為、別に非常用門扉を設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「心を癒すコミュニケーションが出来る」を目標に、ホーム職員間で話し合いや自己チェックをしている。利用者の人格の尊重と、誇りやプライバシーを損ねない方法や言葉掛けを意識している。	内部研修で、自尊心や羞恥心に配慮した言葉の選び方を学び、声掛けには気を付けている。「立てますか」「どうされましたか」と丁寧語で声掛けをするように努めている。失禁した時も、職員が直ぐに気付けなかったことを詫言っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	初詣に行きたい、紅葉刈りに行きたいと何気ない発言を実現できるように取り組んでいる。毎日午前中の飲物はミニ喫茶店を開き選択できる機会を設けることで利用者の自己決定を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム職員の都合ではなく、起床した時に朝食を摂れるように配慮している。最低限の生活リズムが維持出来るように努め、個々のペースに合わせてながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の訪問があり、その人らしいおしゃれや身だしなみを楽しんでいる。洗顔後には化粧水を使用したり、無くなった場合は購入の支援もしている。行事のときは普段しない方でもお化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを尋ねて、献立の参考になっている。一緒に食事の準備や後片付けをするようにしている。誕生会や行事などのときは利用者に希望を尋ね、季節感ある視覚的にも楽しめる彩りある献立を作成している。	食事が楽しみなものになるよう、朝・昼・夕食全ての色取りを工夫し、5品を提供している。広告に掲載されている旬の食材が食べたいと言われれば、献立に加えている。魚売りも来てくれるので、鮭は半身を購入し、事業所で捌き、新鮮な魚が食べれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録して一日の状態を把握している。水分摂取では、9時には緑茶、10時には好みのもの、15時にはお茶とお菓子を出すことで、出来るだけ全員が1200cc以上になるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3度の食事後に口腔ケアをしている。手順が分からない利用者には、ホーム職員が付き添って援助している。また、夜間は義歯洗浄剤で除菌をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった時間にトイレ誘導を行い、オムツを使用している利用者も失敗を減らせるように働きかけている。スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立に向けた支援をしている。	排泄量のデータを集計し、その量にあったパットを使用するようにしている。1週間のデータを基に、今なら布パンツでも問題ないと判断すれば布パンツに変更している。ポータブルトイレの使用を嫌がる利用者には、2名介助でトイレまで誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、-2日目より、朝・起床時コップ一杯の冷牛乳や冷水摂取を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スムーズに入浴出来るように入浴順序の声掛けを適宜している。また、入浴拒否があった利用者においては、時間をおいて再び声掛けを行ったり、声掛けの職員を替えたりしている。	職員からの声掛けにも工夫しているが、他の利用者からも「気持ち良かった」と声掛けをもらっている。寒いと言われる利用者には、浴室で上衣のみを着てもらっている。異性の介助だと嫌がる事がたまにある場合は、必ず同性が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じ、日中でも訴えがある利用者には入床していただき、夜間、眠れない利用者には、職員と会話をしたり、温かい飲み物を一緒に飲みながら、気持ちよく入眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や錠剤の飲み込みが困難な利用者に対し、Drや薬局と相談して粉末状にする等無理なく服薬できるように職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割を提供することで、日々の生活に張り合いを感じていただけるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス流行のため中止していたが下火になったときに少数数に分かれてドライブをした。	コロナ禍になる迄は、散歩に出掛けたり、買い出しに同伴してもらっていた。現在は、天気の良い日は庭に出て、お茶を飲んだり歌をうたったりしている。コロナが落ち着いていた時は、大勢の人と接触しないかどうか事前の下調べをし、デイサービスの運転手にも休日出勤してもらい紅葉を見に出かけた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス流行のため出来ていなかったが1度だけ出かけた先で買い物を楽しんだ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら事務所から電話を掛けられるように支援をしている。また、手紙のやりとりは、近所のポストに投函が出来るように支援している。オンライン面会、LINE面会をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、天窓から雲の流れや中庭から雨や雪の様子を見たり、花を植えて成長する様子を観られるようにしている。また、四季折々に応じた飾り付けをおこない、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	共有空間も密にならないよう、配置を工夫している。テレビも以前はソファに座ってしか見れなかったが、テーブルから直接見れるよう新たに1台購入した。事業所の庭からは、鶴山公園が見渡せる。3年ぶりに打ち上げられた花火を、庭からアイスを食べながら鑑賞した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの空間や気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファ、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参した写真には、デコレーションをして居室に飾り、いつでも見られるようにしている。また、安心できる居室作りのため遺影、テレビ、琴等を持参できている。	在宅での生活習慣を大切にしたいと考え、鏡台と化粧品を持ち込んでもらい、朝4時に起床し、化粧をしている利用者もいる。流行りの裾が長い服を着る利用者の居室には、裾が床に付かないようハンガーラックを別に購入してもらった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を分かりやすくするために、居室に名前を書き、トイレには札をつけている。浴室内の手摺りには目印をつけ握りやすく工夫をし、自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社すえ広企画		
事業所名	グループホームじーちゃん・ばーちゃんのお家A,B棟		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	令和4年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活が入居者様にとって生き生きと生活して行けるように入居者様側に立って考えることをモットーとし、職員は全員同じ考えでケアすることを目指している。建物の外観は建設をするときから施設でなく多世帯で住んでいる広い住宅に見える外観にこだわった。入居者様から「やれやれ家に帰った。ただいま！」の声が聞こえてくる。庭は芝生になっている。お茶、食事を楽しんで、四季折々の花々に囲まれ、隣接の畑では野菜収穫ができる。庭から春には鶴山公園の桜、夏の津山納涼花火観覧、そして流しうめんは庭での恒例行事となっている。共用型通所を開設していることは同じ空間の中で交流ができ入居者様にとって沢山の刺激に囲まれた生活を送ることができる。当職員は資格取得を目指し、資質向上のために積極的に支援を受けられる体制をとっている。また看護師、作業療法士、教諭と介護職は多数の資格を持ち、多くの経験を踏まえ職員間の連携を図っている。ゆとりのある介護を目指し、人員基準以上の職員配置がある、23~24人の職員で開設当時から勤務5年~10年以上在籍している職員が大多数を占めている。ICT活用により業務効率化を実施している。高校の実習受け入れにも協力体制を取り、未来の介護士育成にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの前に当ホームの理念である「地域との交流を持ち、諦めを希望に変えられる様支援致します」を唱え、入居者の方々が自信を持って生活が送られるように話し合う努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内在住の職員がいることで交流は深い。町内の溝掃除、近隣のゴミ拾い等に職員が参加をしている。新型コロナウイルス感染症のために地域の交流ができなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護保険、グループホームについて地域の方、民生委員、愛育委員さんからの相談相手となり、津山市、包括、社協へ相談が出来るように援助や支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やホーム職員の活動報告、ご家族に対しての勉強会は新型コロナウイルス流行のために全く出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびホーム全職員が会議で話し合い、禁止事項等を事務所内に貼っている。身体拘束の勉強会をおおむね2ヶ月に1回の割合でレポートにまとめている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者は利用者を守るうえで入居時の家族関係に気を付け、包括、社協と連絡を取り成年後見制度を利用した。事業所内での防止策として、特に夜間は、1時間に1回ユニット間で報告をし、記録に残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業および、成年後見制度を学んで支援している。また、制度を必要としている利用者と家族に対して、支援をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡して契約の時に、質疑応答の時間を設定している。改定時には追加で口頭と文章で説明し、同意書にサインをもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催も出来ずに今期は過ぎて行ってしまった。ホームだより等でお知らせをする機会のみになった。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や効率会議、ミーティングでホーム職員の意見や提案を吸い上げて反映させている。また、会議録を回覧して全ホーム職員が議題を周知出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の努力や実績を把握出来るようにコミュニケーションを図り、各々が向上心を持って働けるよう環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修ができず、キャリアアップ訪問研修の講師の先生を招いての研修もできなかった。急遽PCのリモートを通して研修を、慣れないながらも参加している。資格取得に向けた研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中での研修、交流等の集まりに参加をしていない。また、自粛を促し参加を促すこともしなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全ホーム職員が個別に声掛けをし、本人が困っている事、不安な事、要望など心身状態の変化を申し送りで伝達している。安心感をもてるまでは、相談しやすい職員を主に関係づくりが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長および管理者は、電話や面会時に家族が困っている事、不安な事、要望などを傾聴し、可能な限り相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、随時サービスの変更が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合い生活していると実感して頂けるように、買い物や食事の準備などの役割を提供し、介護されるのみの一方的な立場に置かない関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊/外出の申し出や電話の要望、面会など新型コロナウイルス感染症のためにすべてを中止にした。オンライン面会を中心に切り替えて、家族・本人の絆を大切にした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所が想起できるように、年賀状や手紙のやり取り、電話、面会などで関係が保てるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係を維持出来るように観察し、問題が生じたときは、ミーティングや申し送りなどで話し合い個人を大切にした支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、家族と電話でのやり取り、手紙などで関係を維持出来るよう努めている。入院から施設に転居になったときは家族から連絡をいただいたり、電話をするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に話をする機会を設け、現在の想いや今後の生活像を把握出来るように努めている。困難な場合は、家族からの意向で本人の様子から汲み取り検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過などについて家族や支援事業所などからの情報を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や有する力等の現状を観察し、ホーム職員間で情報共有して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・ホーム職員と話し合い、毎月のミーティングの中で個人に即した方法や本人の気持ちを踏まえて意見やアイデアを提案して介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌を紙媒体からiPadに変更をした。従来と変わらない内容で、実践や介護計画の見直しに活かしている。また、個々の部屋担当者が中心となり、アセスメントをしたうえで、計画を立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況およびその時々生まれるニーズに対応できるよう、余裕のある人員と、サービスの多機能化を考えた工夫をしている。共用型のDSを活用することで張りのあるGHサービスを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部に出ることは出来ていないが、本人の力が発揮でき豊かな暮らしを楽しむ事に重点を置いている。津山の昔の写真集を購入し懐かしい街並みを語り合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などの意思を尊重したかかりつけ医で適切な医療を受けられるように同行や手紙、1週間の体調を記録した受診カードを持参して支援をしている。また、受診困難な入居者は、往診で対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの中に看護師が勤務をしている。介護職の立場を考え、医療に関して困りごとがないように相談が出来る良い関係が保たれている。利用者が適切な受診や往診を受けられるように共同で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努め、病院の入退院時には情報交換シートを使用している。また、退院には、実際にホーム職員が病院に行き、生活がスムーズに移行出来るよう関係者に聞き取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、医師・家族と十分な話し合いをしている。ホームでの看取りか、支援出来ることはなにかを適宜に話し合い、本人が望む事を大切に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ホーム職員は、応急手当および初期対応の仕方を消防署から訓練を受けている。また、マニュアルを作成し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は、防災管理担当者が年間計画を立案して独自に訓練を実施している。また、近隣の協力で1ヶ所非常用門扉を増設できた。地域での防災訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「心を癒すコミュニケーションが出来る」を目標に、ホーム職員間で話し合いや自己チェックをしている。利用者の人格の尊重と、誇りやプライバシーを損ねない方法や言葉掛けを意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	初詣に行きたい、紅葉刈りに行きたいと何気ない発言を実現できるように取り組んでいる。毎日午前中の飲物はミニ喫茶店を開き選択できる機会を設けることで利用者の自己決定を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム職員の都合ではなく、起床した時に朝食を摂れるように配慮している。最低限の生活リズムが維持出来るように努め、個々のペースに合わせてながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の訪問があり、その人らしいおしゃれや身だしなみを楽しんでいる。洗顔後には化粧水を使用したり、無くなった場合は購入の支援もしている。行事のときは普段しない方でもお化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを尋ねて、献立の参考にしている。一緒に食事の準備や後片付けをするようにしている。誕生会や行事などのときは利用者に希望を尋ね、季節感ある視覚的にも楽しめる彩りある献立を作成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録して一日の状態を把握している。水分摂取では、9時には緑茶、10時には好みのもの、15時にはお茶とお菓子を出すことで、出来るだけ全員が1200cc以上になるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3度の食事後に口腔ケアをしている。手順が分からない利用者には、ホーム職員が付き添って援助している。また、夜間は義歯洗浄剤で除菌をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった時間にトイレ誘導を行い、オムツを使用している利用者も失敗を減らせるように働きかけている。スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、-2日目より、朝・起床時コップ一杯の冷牛乳や冷水摂取を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スムーズに入浴出来るように入浴順序の声掛けを適宜している。また、入浴拒否があった利用者においては、時間をおいて再び声掛けを行ったり、声掛けの職員を替えたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じ、日中でも訴えがある利用者には入床していただき、夜間、眠れない利用者には、職員と会話をしたり、温かい飲み物を一緒に飲みながら、気持ちよく入眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や錠剤の飲み込みが困難な利用者に対し、Drや薬局と相談して粉末状にする等無理なく服薬できるように職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割を提供することで、日々の生活に張り合いを感じていただけるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス流行のため中止していたが下火になったときに少人数に分かれてドライブをした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス流行のため出来ていなかったが1度だけ出かけた先で買い物を楽しんだ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら事務所から電話を掛けられるように支援をしている。また、手紙のやりとりは、近所のポストに投函が出来るように支援している。オンライン面会、LINE面会をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、天窓から雲の流れや中庭から雨や雪の様子を見たり、花を植えて成長する様子を観られるようにしている。また、四季折々に応じた飾り付けをおこない、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの空間や気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファ、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参した写真には、デコレーションをして居室に飾り、いつでも見られるようにしている。また、安心できる居室作りのため遺影、テレビ、琴等を持参できている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を分かりやすくするために、居室に名前を書き、トイレには札をつけている。浴室内の手摺りには目印をつけ握りやすく工夫をし、自立した生活が送れるようにしている。		